研究者リーダーシップ・プログラム
「第 2 回 キャリアについて考える」参加レポート

今回の研修は、自身のキャリアを改めて振り返る貴重な機会となった。菊池千草氏、財津桂氏の講義では、それぞれの研究人生に影響を与えた出来事や人との出会い、研究と生活の両立に対する考え方などが紹介され、研究者としての生き方には一つの正解がなく、多様なキャリアパスが存在することを学んだ。つい自分は他人と比較してしまうが、「自分はどうありたいのか」と問うようにし、自分自身の職業人生について深く考えなければならないと感じた。ちょうどタイミングよく、自分自身のことについて考えなければならないと思い知らされる出来事があったので紹介したい。

私は日頃、教育や学内業務など目の前の仕事に追われる毎日を送っている。そのような状況の中で、ある日、同僚から「研究がうまく進められていないのではないか」と率直な指摘を受けた。その言葉を聞いたとき、私はハッとした。忙しさを理由にして、自分自身の研究や将来について考えることを後回しにしていたことに気づいたからである。しかも忙しいことを、仕事ができていて心地がいいという理解とすり替えて考えていたことに、ドキッとさせられた。研究者としての自分の軸や、何を大切にしたいのかを十分に見つめ直さないまま、日々の業務に流されていたのかもしれない。

今回のプログラム受講を通じて、多様な研究者の経験や価値観に触れ、自分自身のキャリアを主体的に考えることの重要性を改めて見つめなおしたい。せっかくこのような機会を得られたので、今後は研究の時間を意識的に確保し、研究者としての目標やありたい姿を明確にしながら仕事の進め方を立て直していきたいとも考えている。そして、自らの経験を踏まえて学生にもキャリア形成の意義を語れる教育者でありたいと強く感じた。これまでの思考の傾向や行動の習慣を簡単には変えられないかもしれないが、まずは意識することから始めたいと思う。